

キガンピ *Diplomorpha trichotoma* (Thunb.) Nakai

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 12。西日本系の植物で、愛知県は分布域の東限にあたる。県内では生育地、個体数ともに少ない。

【形態】

落葉性の低木。よく分枝し、高さ 1~2m になる。今年枝ははじめ緑色、のちに紫褐色になり、無毛、腋上性の側枝を出す。葉はほぼ対生し、ごく短い柄があり、葉身は卵状楕円形~広披針形、長さ 2~8cm、幅 1~3.5cm、先端は鋭頭~鈍頭、基部はくさび形~円形、葉質は薄く、無毛で全縁である。花期は 7~9 月、花序は小さい穂状で、今年枝上部の枝端につき、全体として円錐状となる。花は淡黄色、長さ 7~8mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (小林 48018, 1993-9-18)、9 鳳来南部 (芹沢 83373, 2008-9-20)。

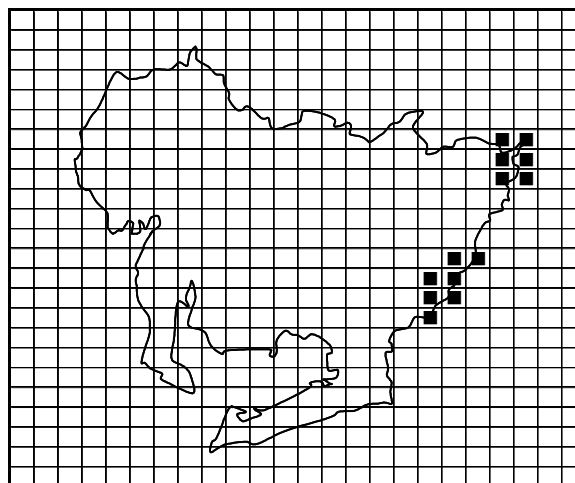
【国内の分布】

本州西部、四国、九州 (大隈半島以北)。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島南部。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

低山地の林縁などに生育する。愛知県の生育地のうち富山はやや明るい林内、鳳来南部は造林地の林内である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

2 区画の各 1 カ所に群落がある。鳳来南部は個体数が多いが、生育範囲は狭く、本来の自生かどうかやや疑問が残る。現在のところはよく開花結実するが、遷移の進行により今後衰退する可能性がある。富山は最近の状況が確認されていない。

【保全上の留意点】

間伐など、造林地の適切な手入れが必要である。管理が継続されれば、林内では生育できなくても、林縁などで存続できるものと思われる。

【特記事項】

ほぼ対生する葉が特徴である。

【関連文献】

保木本 I p.225, 平木本 II p.81, 平新版 4 p.39, SOS 旧版 p.64.